

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年通称版Ver.2 (BPI/BE/測定) [使用評価ソフト: CASBEE-NCB_2010bpi&bel(v.2.1)]

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都大学(木津川)本館	階数	地上3階
建設地	京都府木津川市	構造	RC造
用途地域	指定なし	平均居住人員	XX 人
気候区分		年間使用時間	XXX 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年5月 0.0	評価の実施日	2014年8月20日
敷地面積	246,191 m ²	作成者	久米設計・婦木建築設備事務所
建築面積	1,401 m ²	確認日	2014年8月28日
延床面積	3,395 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q1のスコア = 3.0 Q2のスコア = 3.5 Q3のスコア = 3.1

LR1のスコア = 4.0 LR2のスコア = 3.3 LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項

<p>メリハリのある空間構成により、研究施設の機能を満足した上で、合理的な施設とする。</p>	<p>期待耐用年数が40年以上の配管を積極的に採用した。</p>	<p>施設用途上、地域植生とはことなるが、十分な空地の確保と、実験実習用の緑地が計画している。</p>
<p>LED照明を採用し、省エネルギーを行った。</p>	<p>節水型便器や自動水栓等を採用し、より節水が行えるように計画した。</p>	<p>広大な敷地のため周囲環境への影響は低減されている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される